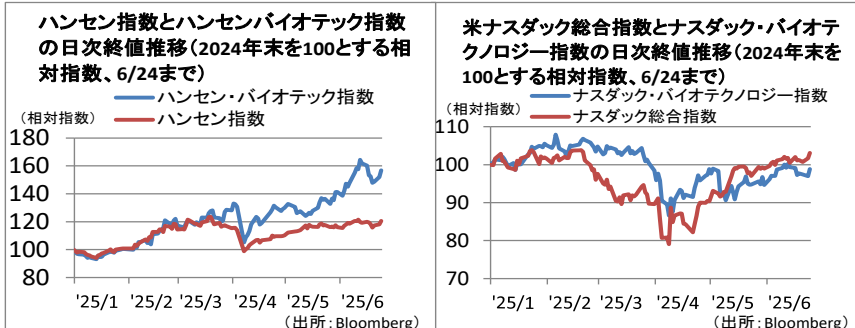


”ディープシー・モーメント」の中国バイオ医薬品業界“

1月に中国の新興企業ディープシーが開発した低コスト生成AI(人工知能)が登場し、米国を中心としたAI覇権を揺るがすのではないかと話題になった。中国発のイノベーションが世界の産業構造を覆す瞬間を意味する「ディープシー・モーメント」という言葉が広まったことは記憶に新しい。約70年前に旧ソ連が史上初の人工衛星の打ち上げに成功し米国に衝撃を与えたことに對し、米オバマ元大統領が人工衛星の名前になぞらえて「スプートニク・モーメント」と表現したことに由来する。中国はロボット他様々な分野で研究開発投資を増強して技術を磨いている。

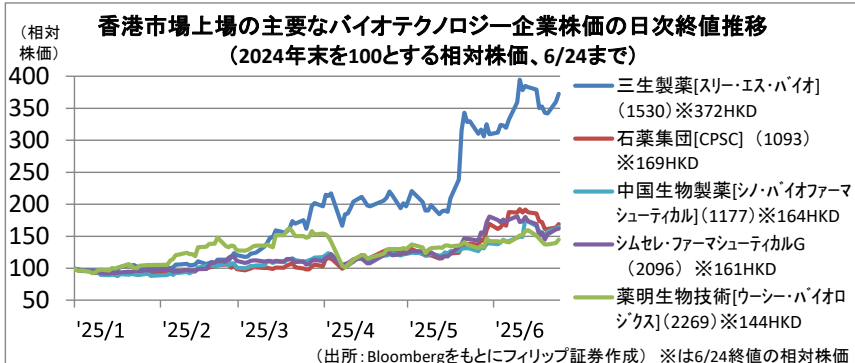
バイオ医薬品業界においても、米医薬品大手ファイザーが5月、中国の三生製薬[スリー・エス・バイオ](1530 香港)のがん治療薬に對し開発や製造の独占ライセンス契約を締結したと発表。米国大手企業が中国企業の技術を頼る姿は「ディープシー・モーメント」を象徴する事例として市場で受けとめられている。

最近の香港・中国本土株式市場では、半導体製造装置について米国による対中国輸出規制が強化されても、国内企業の技術力向上を背景にそれを国内関連企業への需要増に繋がる好材料と捉える傾向が強くなっている。バイオ医薬品も、バイオ兵器開発など安全保障上の観点から中国企業との取引規制が強化されても、同様に国内企業への需要増につながると好感される余地があるだろう。



”海外企業との関係を強化する中国バイオ医薬品企業“

三生製薬以外にも海外企業との提携では、民営製薬会社の石薬集団[CPSC ファーマ](1093 香港)が英製薬大手アストラゼネカに對し、心血管疾患の治療薬候補の化合物を世界で開発・事業化する独占的ライセンスを供与した。総合医薬品メーカーの中国生物製薬[シノ・バイオファーマ](1177 香港)は独ベーリンガー・インゲルハイムとがん治療薬の分野で提携している。主にジェネリック医薬品の製造・供給を行うシムセレ・ファーマシューティカル・グループ(2096 香港)は、不眠症治療薬「クベピック」で知られるスイスの Idorcia と不眠症治療薬の共同開発を進めている。バイオ医薬品の新薬発見から臨床試験、製造まで包括的に請け負う開発受託会社の薬明生物技術[ウーシー・バイオテックス](2269 香港)は世界の製薬大手20社すべてを顧客としている。中国バイオ企業は、人口規模が大きく被験者を早期に確保できること、創薬・バイオ医薬品を戦略産業として重点育成する政府の支援策、規制当局による審査の迅速化などを背景に、成長の加速が見込まれる。



ハンセン指数またはハンセンテック指数構成銘柄(全96銘柄)における終値の昨年末来騰落率

前回基準日: 20250610 基準日: 20250624

順位	2024年末来騰落率・上位10銘柄	(%)	前回順位
1	周大福珠宝集团[チャウタイフックジュエリーグループ]	92.6	2
2	金蝶国際軟件集团[キングディー・インターソフトウエア]	75.8	5
3	ZhongAn Online P&C Insurance	71.9	6
4	Hansoh Pharmaceutical Group Co Ltd	69.6	4
5	石薬集団 [CPSC Pharmaceutical Group]	69.1	1
6	小米集团[シャオミ]	64.9	7
7	中国生物製薬 [シノ・バイオファーマシューティカル]	64.6	11
8	小鹏汽車	64.4	3
9	華虹半導體[ファホン・セミコンダクター]	57.3	14
10	中国宏橋集团[チャイナ・ホンチャオ・グループ]	54.2	19

順位	2024年末来騰落率・下位10銘柄	(%)	前回順位
96	East Buy Holding Ltd	-34.7	96
95	ASMP	-25.8	94
94	金沙中国 [サンズ・チャイナ]	-24.9	95
93	信義光能[シンイー・ソーラー]	-24.8	91
92	比亞迪電子(国際) [BYDエレクトロニクス]	-23.4	92
91	蔚来汽車[ニオ]	-15.8	90
90	ニュー・オリエンタル・エデュケーション・アンド・テクノロジー	-15.5	93
89	海爾智家[ハイアールスマートホーム]	-14.3	89
88	携程旅行網[トリップドットコムグループ]	-14.0	85
87	Meituan (美团)	-12.4	81

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

【2025年6・7月: 中国主要経済指標】

●6月13日(金)

- ・5月資金調達総額: 前回163.40兆元、結果186.30兆元
- ・5月新規人民元建て融資: 前回10.06兆元、結果10.68兆元
- ・5月マネーサプライM2<前年同月比>: 前回+8.0%、結果+7.9%

●6月16日(月)

- ・5月小売売上高<前年同月比>: 前回+4.7%、結果+5.0%
- ・5月鉱工業生産<前年同月比>: 前回+6.1%、結果+5.8%
- ・1-5月不動産投資<前年同期比>: 前回▲10.3%、結果▲5.7%
- ・1-5月固定資産投資<前年同期比>: 前回+4.0%、結果+3.7%
- ・5月住宅販売面積<前年同月比>: 前回▲1.9%、結果▲2.8%
- ・5月新築住宅価格<前月比>: 前回▲0.12%、結果▲0.22%
- ・5月調査失業率<前年同月比>: 前回5.1%、結果5.0%

●6月20日(金)

- ・1年ローン・プライムレート: 前回3.00%、結果3.00%
- ・5年ローン・プライムレート: 前回3.50%、結果3.50%
- ・5月対外直接投資<前年同月比>: 前回▲10.9%、結果▲13.2%

●6月27日(木)

- ・1-5月工業利益<前年同月比>: 前回+1.4%

●6月30日(月)

- ・6月製造業購買担当者景気指数(PMI): 前回49.5
- ・6月非製造業購買担当者景気指数(PMI): 前回50.3

●7月1日(火)

- ・6月(財新)製造業購買担当者景気指数(PMI): 前回48.3

●7月3日(木)

- ・6月(財新)サービス部門PMI: 前回51.0

●7月7日(月)

- ・6月外貨準備高: 前回3.285兆USD

●7月9日(水)

- ・6月消費者物価指数(CPI)<前年同月比>: 前回▲0.1%
- ・6月生産者物価指数(PPI)<前年同月比>: 前回▲3.3%

●7月14日(月)

- ・6月貿易収支: 前回+1032億USD
- ・6月輸出<前年同期比>: 前回+4.8%
- ・6月輸入<前年同期比>: 前回▲3.4%

出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL: 03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会認定アナリスト、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考としてレポートの作成者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害について、フィリップ証券も、当レポートの作成者も、責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載することを禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく表示>

・フィリップ証券または本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。